

コながるスイーツ干!!

久留米市社会福祉協議会

vol.7

支え合い推進会議

—その⑤—

「山本校区」の取り組み



支え合い推進会議の様子を紹介していくシリーズ第5弾。今回は、「山本校区」をご紹介します。

●山本校区社会福祉協議会
会長 高峰和夫さん

●山本校区民生委員児童委員協議会 会長 綾部章子さん

●山本校区振興会
事務局長 池田充志さん

3名のメンバーにお話をお聞きしました。

●山本校区支え合い推進会議は
どんな方たちが参加しているの？

市内でも高齢化率が高い山本校区。「山本校区の高齢化をシミュレーションしてみると10年後には、高齢化率がより高まり、市内でもトップクラスになることがわかりました。とても危機感を感じました」と池田さん。久留米市からの提案もあり、平成29年、「支え合い推進会議」を立ち上げました。山本校区支え合い推進会議の主な構成団体は、校区社会福祉協議会・校区民生委員児童委員協議会・身障者の会・老人クラブ連合会・ふれあいの会などです。

●実際にどんな取り組みをしているの？

山本校区の全世帯にアンケートを行い、住民の意識調査を行いました。調査の

結果、生活上の困りごとやみなさんのボランティア意識が高いことがわかりました。まずは、最も取り組みやすい「ゴミ出しサポート」から始めようと「支え愛隊」を令和元年にスタート。支え愛隊は、顔見知りの方が頼みやすいということで、住んでいるところが近い自治区ごとに依頼者と活動者をマッチングしています。今までに3人から依頼がありました。取組み件数は少ないように見えますが、「今は少なくてもいい」と池田さんは話されました。「移動支援（コミュニケーション）の取り組みも開始して10年程してから自発的に依頼する方が増えてきた。それは、根気強く広報周知を行ってきたから。その時は必要なくても、必要になった時に『こんなのがあったな』と思いついてもらえることが大切。支え愛隊も同じで、今は広報を頑張つて、5、6年後に活動に花が



咲くといいなと思っています。その時、わたしたちはお願いする側だろうけど（笑）」

●活動をきこかけに考えた
新たなこと

支え愛隊は、初め高齢者のためのサービスとして始まりました。しかし、「ふと、高齢者だけではないのでは...」と思いました。全世代と考えたときに思ったのが、防災についてでした」と綾部会長は話します。山本校区は耳納連山が近くにあり、災害が起きたときは、土砂崩れなどに不安があります。「前もって、避難の支援が必要なの把握と、避難の仕方を考えておく必要があると思っていた」と高峰会長。そこで、各区長と協力し、自治区ごとの防災マップ地図を作成。このマップは、避難する上での危険な場所（土砂崩れのレッド・イエローゾーン、ため池）が明記されていて、自宅から避難所までのルートを自分自身で考え、決めたルートに色を塗り、見えるところに貼っておくようになっています。「この地図をもとに、少しでも災害への不安が取り除けたらと思っています。また、東西の端にある自治区は、コミュニケーションセンターまで避難するのが危険なので、隣の校区の避難所に避難できるように、隣接校区同士で話し合いを重ねました。3校区共同の防災ガイドも作成し、4月に配布する予定です。これが、事務局長としての最後の仕事かな（笑）」と池田さんは微笑みながら話されました。

● 高峰会長
山本校区の支え合いを維持していきたくと思っています。アンケート調査を初めて行いましたが、住民の皆さんのことを知るいい機会にもなりました。山本校区に支え合いが根付いていることは嬉しいですが、隣近所の関係が薄くなっているのも事実。今は、将来の高齢化を考え、いざ「支え合い」が必要になった時のための土台作りだと考えています。そのためにも、今後は、この取り組みの大事さをもっと多くの住民の方に知って

活動して感じたこと



もりたいです。

綾部さん

これからも気軽に隣近所が声かけ合うような地域であって欲しいと思います。山本校区は、台風や豪雨の際、土砂災害が起こる可能性のあるエリアでもあります。東西に長いエリアで、災害状況も様々なので、区長さんたちと連携を取りながら、各自治区にあった体制や動きをとっていかなければなりません。きっかけが防災でも、全ては「支え合うこと」がテーマ。住んでいる私たちがどれくらい支え合いを意識できるのか。この地域に住んでいてよかったと、住民の皆さん自らが感じて気づいていくって欲しいです。

池田さん

活動することで、住んでいる皆さんにどう活動を周知していくのが課題だとわかりました。また、1年ごとに区長が交代するので、次の区長への意識の継続も大切になってきます。活動が浸透し、認知されるのには10年ほどかかると思っています。毎月発行される校区の広報紙に、定期的に支え合いの取り組みの記事を載せていますし、毎年1回、ゴミ出しの要望がないか、募集チラシを作成して配布しています。一歩ずつ一歩ずつ、根気よく活動を根付かせていくことが大事だと考えます。

取材を終えて

山本校区は、もともとこの校区に住んでいる方が多く、苗字を聞けば、どの自治区に住んでいるかわかるほどだそうです。積極的に行動が早い山本校区は、支え合い推進会議をはじめ、地域が良くなると思った取り組みをいち早く取り入れてきました。今は、支え合いの取り組みをしっかりと浸透させ、深刻化する高齢化への対応と、住みやすい地域を目指し、活動しています。

- 校区の支え合いの取り組みとして、「支え愛隊」をスタート。
- 深刻化するであろう高齢化にそなえて、今は土台作り。
- 災害時の行動にそなえて、日頃から考える。
- いつかの自分のためになる支え合いの取り組みを知ってもらうため広報周知に力を入れる。



池田 充志さん 高峰 和夫さん 綾部 章子さん

高峰会長の趣味は、畑仕事。2反半の畑には、花と野菜を育てています。花を育てているのは、町に花が絶えないようにという想いから。野菜は子ども食堂に寄付しています。綾部さんは、庭の柿畑が荒れないよう管理を頑張っています。道端の草花を摘んで、押し花作りもされています。「畑が通学路沿いにあるのですが、子どもたちへの声かけができた日は嬉しくなります」と話します。8年間事務局長を務めてきた池田さんは、今年の3月末で退職されました。「今はゆっくり畑仕事をしたいなと思っています。でもまたすぐカムバックするかも(笑)」

久留米市社会福祉協議会

〒830-0027 久留米市門石1-1-34
TEL: 0942-34-3035
FAX: 0942-34-3090

メール: heartful@heartful-volunteer.net
HP: <http://www.heartful-volunteer.net>

久留米市社会福祉協議会 検索

webサイト

「note——つくる、つながる、とどける。」で「つながるスイッチ!!」を検索してください!



つながるスイッチ!!はHPでもwebマガジンでも掲載中